

行政視察 木村 久雄 議員

日時：令和6年11月12日(火)～11月14日(木)

場所：奈良県宇陀市、徳島県鳴門市

区間	交通手段	鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
		キロ	金額				
佐野～東京	鉄道	89.5	1,130				1,130
東京～京都(ひかり635号)	鉄道	513.6	8,360	5,490			13,850
京都～榛原	鉄道	70.4	1,290				1,290
榛原～鳴門	鉄道・バス	219.9	1,430			4,100	5,530
鳴門～新神戸	鉄道・バス	146.0	430			3,600	4,030
新神戸～東京(ひかり508号)	鉄道	589.5	9,460	5,490			14,950
東京～佐野	鉄道	90.0	1,150				1,150
北千住～館林(リパティリようもう25号)	鉄道			1,250			1,250
計			23,250	12,230	0	7,700	43,180

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	43,180 円
(うち航空運賃)	0 円)
計	76,180 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 岩上 裕一

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

公明議員会行政視察報告書

- 1, 日 程 令和6年11月12日～11月14日
- 2, 視察場所 <1日目>奈良県宇陀市 移動診療車について
<2日目>徳島県鳴門市 フェーズフリーの
取組について
- 3, 参加者 菅原 達・小森 隆一・木村久雄（報告者）
- 4, 目 的 (1) 移動診療車による安心して暮らせるまちづくり
宇陀市で導入推進を図った移動診療車について学び。
今後の本市の中山間地域の医療体制に生かしていく。
(2) フェーズフリーの取組について
備えない防災フェーズフリーを学び。今後の本市の
防災に生かしていく。

5, 内 容

(1) 移動診療車による安心して暮らせるまちづくり<1日目>

概要

①宇陀移動診療車

Uda Mobile Clinic 通称=UMC

UMCの大きさ 全長9.8m 全幅2.5mで大型バス程度

②移動診療車導入費用

総事業費 91,671,000円

財源内訳 企業版ふるさと納税 5,000,000円

合併特例債 82,300,000円

一般財源 4,371,000円

③UMCの搭載設備

搭載されている設備の医療機器は、診療所と同レベル

自動尿分析装置・超音波診断装置・全自動血球計数器・モニター付き

除細動器・X線撮影装置・体組成計

④UMC診療スタッフ UMCは通常6名

診療体制

医師(総合診療医) 1名・看護師(常勤1名、非常勤1名) 2名・

事務職（派遣職員） 2名・運転手（委託社員） 1名で週4日運用している。

⑤薬 院外処方 処方箋を調剤薬局に持参して薬を受け取るか。調剤薬局に行くのが困難な方は配達も可能。（1件につき500円の日世負担）

⑥地域医療の課題

* 開業医の相次ぐ閉院（平成30年度に3ヶ所閉院）

* 開業医の高齢化・後継者不足

* サービスを提供する従事者が減少

⑦UMC導入に至るまでの経過

地域の課題を踏まえ、市内医療機関からの意見拝聴や移動診療車以外にも公共施設再利用・診療所の誘致・空き店舗の利用・市立病院までの送迎バスの運用などの案がありましたが、地域医療実態調査を経て導入

⑧移動診療車の診療

一般内科 慢性疾患、急性疾患治療

創傷処理 けがの処理、縫合

その他、整形や泌尿器科、皮膚科などの幅広い診療を実施。

⑨健診・検診

国保特定健診、後期高齢者健診、大腸がん検診、肺がん・結核検診

前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診

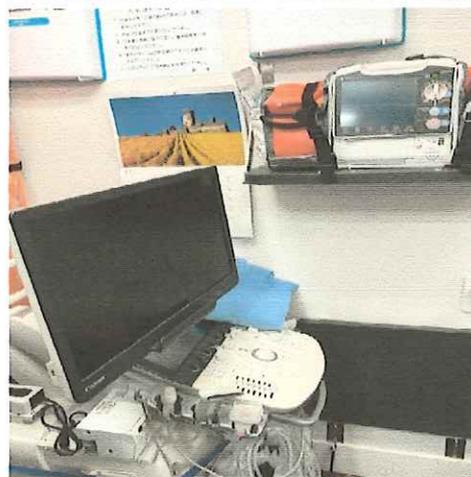
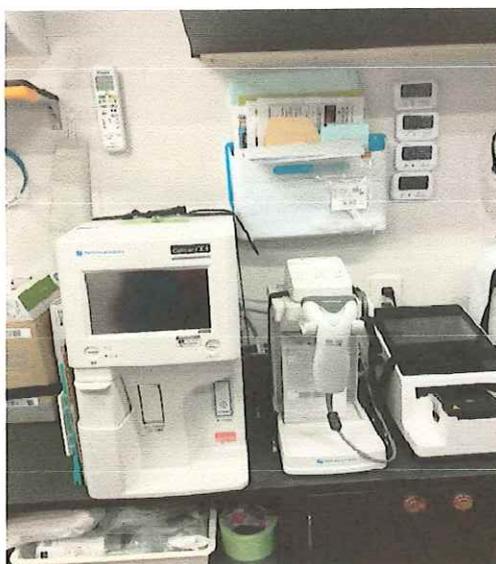
移動診療車



移動診療車設備



診療車内の診療機器



⑩運営費用 (R5)

- | | | |
|-------|-------------|----------------------|
| * 人件費 | 14,400,000円 | (医師、看護師) |
| * 委託料 | 8,156,000円 | (運行管理料)
(受付会計業務料) |
| * 保守料 | 2,056,000円 | (各機器の保守点検) |
| * 通信費 | 704,000円 | (X線画像送信料等) |

* 試薬購入費	298,000円
* 燃料費	202,000円 (診療車燃料費)
* 備品費	61,000円 (タブレット端末等)
計	25,877,000円

①移動診療車導入後の課題

(1)患者の確保

- * 受診者がほぼ固定化している。
- * 健康状態不明者 * 治療中断者

(2)医薬品

- * 配達料の負担
- * 院外薬局が自宅から遠い。処方された医薬品が院外薬局ない。

6. 所感

宇陀市の移動診療車の視察をさせて頂き、少子高齢化による医療の重要性を改めて学ぶことが出来ました。本市においても、宇陀市同様に診療所を抱えており医師の確保などの問題もあります。この先、中山間地域の人口減少が進行すれば、診療所の存続も厳しい状況になりかねません。今後移動診療車も含め、中山間地域の検診体制の強化をはかるためにも視察の内容を生かしていきたい。

5, 内 容

(2) フェーズフリーの取組について<2日目>

概要

①フェーズフリーの考え方

日常と災害時の局面(フェーズ)をなくす=フェーズをフリーにして、ふだんの生活のなかで使うものを防災にも役立てていく。

②フェーズを取り込んだ取組み

*老朽化した市庁舎の建て替え、浄水場、道の駅をつくり、市民に分かりよくした。

*教育にフェーズフリーを取り入れた。

*フェーズフリーコンテストを取り入れた。

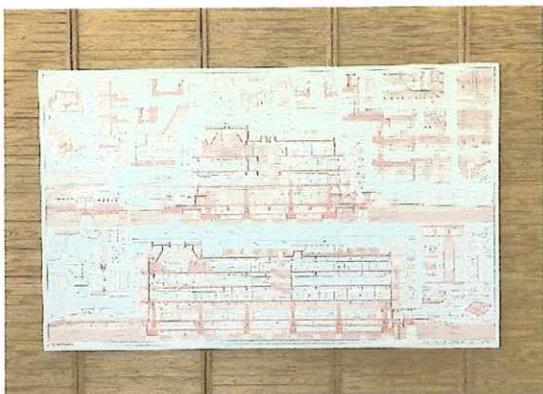
③効果

*フェーズフリーの考え方を取り入れ、日常的に使用可能な防災機能を兼ね備える施設を整備することで、費用の抑制につながるほか、コストをバリューに転換することができる。

*フェーズフリーの考え方を取り入れ、普段から消費している飲料水や食料を多めに購入し、消費し、また購入するローリングストックを行うことで、食べ慣れたものを非常食にすることができ、無理な

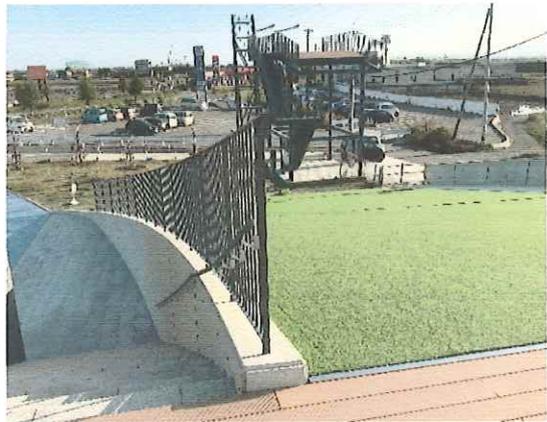
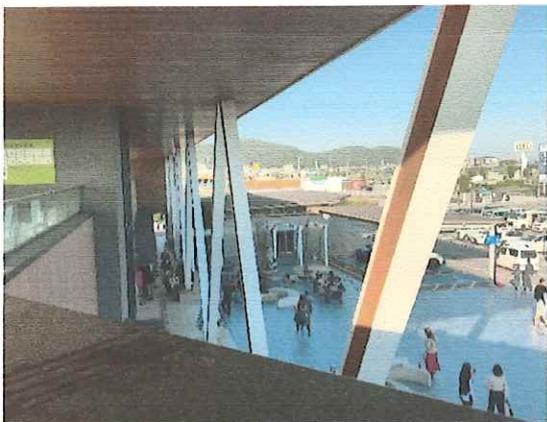
く災害に備えることができ、自分で自分を守る自動の推進と防災意識の向上に繋がる。

④鳴門市庁舎



⑤道の駅「くるくるなると」





6、所感

鳴門市の市庁舎及び道の駅「くるくるなると」を視察させて頂き、新たな防災の在り方について学ぶことが出来ました。本市においても、2019年10月の台風19号の被害を考えると備える対策も必要と考えるが、通常時から通常時に使用できるものが災害時に何ができるのか考えておく必要がある。少子高齢化における防災の在り方について、フェーズフリーを生かしていきたい。